

交換留学（派遣）帰国報告書

.....
留学先大学： Université Paris Diderot
留学先での所属学部・研究科： LAC (Lettres et art, cinéma)
留学先での在籍身分： 学部生
留学期間： 2015 年 9 月～ 2016 年 6 月
神戸大学での所属学部・研究科： 文学部
学年（出発時）： 3
本報告書記入日： 2016 年 7 月 21 日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日： 9 月 7 日

学年終了月日： 5 月 14 日

学期：

① 9 月 7 日～ 1 月 16 日

② 1 月 18 日～ 5 月 14 日

③ ___ 月 ___ 日～ ___ 月 ___ 日

④ ___ 月 ___ 日～ ___ 月 ___ 日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

日本語学科があり、日本語学習中のフランス人学生と交流がしやすい。友人も作りやすい。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：

留学生のための語学の授業がある。9月、学期が始まる前に、留学生用のインテンシブ語学コースを受講できる。

勉学面でのサポート：

チューター制度に申し込むことができるが、利用していないため詳細は分からない。

精神面でのサポート：

テロが起きたあと、カウンセリングの案内があった。利用していないため、詳細は分からず。

住居・生活面でのサポート：

大学がCROUSという機関を通して寮を斡旋してくれる。

課外活動のサポート：

日本人留学生と、日本語学習中のフランス人学生とのアソシアシオンが大学で毎週金曜日に開かれる。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。



はい



いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。（気をつけること等）

大学の仲介で住居を見つける場合は指定された手順や必要書類をよく確認して、言われたとおりに行動すればなんにも問題はありません。入居するときに、その月の家賃と一緒に保証金200ユーロを払います。私は15区の「Résidence de Vaugirard」に住んでいました。学校からはメトロで50分程度とかなり遠いところでしたが、とてもきれいな寮でトラブルも少なくおすすめです。大学から住居の斡旋を受ける際に前もって提出する書類に希望の寮を選択する欄があります。見落とさないようにしてください。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

OSSMAの保険に入りました。（損保ジャパン）

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

学校が始まってすぐ、250ユーロを払ってSécurite Social に加入しました。パリ第7大学では社会保険に入らなければ学生証を交付してもらえません。

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況：■日本から持参した □現地で購入した □保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否：■接続できた □接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

インターネットは無料でした。ルーターがなかったため、パソコンを有線でつなぎ、パソコンからWi-Fiの電波を飛ばせるソフトウェアで電波を飛ばしていました。

大学でのPCの使用の可否：□使用できた □使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

図書館で使用できます。日本語環境はないと思います。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

通っていません。特に大きな病気もしませんでした。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

特に思いつきません。硬水に体が慣れるまで少し時間が必要かもしれません。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

りそな銀行でデビットカードを作りました。現地のATMで現地通貨を引き出すことができます。レートの良い時に口座の日本円をユーロで引き出して、フランスで新たに作った銀行口座に振り込んで使っていました。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

トイレに気軽に入れません。カフェでコーヒーを飲むついでに店のトイレをつかいます。ストライキ等で公共交通機関が休止になったりします。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

レストランやカフェ、劇場などで初めて会った人と少し話すくらいでした。あとは店員やスタッフ等との会話。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

しませんでした。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

テロが起きてからは警備が厳しくなり、出入口の制限、荷物検査等、すこし窮屈な生活になりましたが特に目立った危険はありません。パリは外国人が多いため、日本人が目立つことはありませんが、日本人らしい服装は案外目立つので、スリなどの標的になりやすいようです。同じ時期に留学に来ていた日本人女子学生のほとんどがスリや痴漢の被害にあったと聞きました。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

していません。

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

（財団等名） JASSO , 10万 円/月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

地球の歩き方
トリコロールパリ <http://tricolorparis.com/>

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

ラップ、料理が好きであれば日本の調味料

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：（仏検2級 ） 点→帰国後（仏検1級一次讀） 点

仏検1級を帰国1か月前に受験しました。一次試験には合格し、7月下旬に二次試験を受験しました。合格結果は8月9日に発表されます。そのほかに語学力に関することといえば、新聞を読むのが楽になりました。日本を離れて暮らすことで、盲目的に受け入れていた現状や、当たり前だと思っていた様々なことについてゆっくり考え直すことができました。日本の時事問題や政治について、フランス人の意見を聞くのはとても興味深かったです。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

個人的には金銭面での困窮が最大のトラブルだったように思います。特に大きなトラブルはなかったです。留学を始めてすぐの数か月間は社会保険料、銀行口座と寮の保証金、生活用品をそろえるのに出費がかさみました。語学力の面でももちろん苦労しましたが、予想していた以上に苦労することはありませんでした。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

適切だったと思います。特にこれ以上の要望は思いつきません。強いて言えば、留学経験者と留学予定者、希望者との間で交流を持つ機会を増やす、などでしょうか。個人の間では交流の機会を作るのは難しいですし、助けるにも助けようがありません。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

薦めます。ほかのプログラムや私費留学は何よりも金銭的に難しい面があります。私自身もJASSOの奨学金を受給できなければこの留学は絶対に不可能でした。留学予定者にとっては、希望する大学に留学したことのある先輩がいるのも心強いのではないのでしょうか。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 5
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 5
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 5
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 4
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 5
- ・留学全体の総合的な評価： 5

その他 自由に記入してください。(800字～)

留学生活が始まって間もないころは本当に留学した意味があるのだろうか、留学して何か成果を残すことができるだろうかと思悩む日がしばしばありました。いまはとりあえず仏検1級の一次試験に合格したことでほっとしています。もちろん語学試験は指標でしかなく、得られたものはほかにもたくさんあります。しかし、他人に留学の成果を認知してもらうのは難しいことだと思います。目に見える結果だけが重要ということは全くないのですが、わかりやすく感じ取れる成果があってよかったなと思います。

語学力に関して言えば、自覚している範囲では特に目立って急激に向上したということはありません。しかし、一年間フランスにいてことで勉強意欲も増えましたし、話す、聞く、書くという能力が底上げされたような感覚があります。フランス語を学習するのが以前よりも楽になりました。新聞を読むのも、留学前は苦手だったのですが、留学を終えてからは新聞やインターネットで政治や時事問題等少し難しめの記事も読みやすくなりました。ラジオを聴くのも以前より苦ではありません。聞き取れる語彙・表現が増えました。

フランスでただ生活しているだけでは絶対に語学力は伸びないと思います。フランスにいて何をどう活用するかという点が一番大事な点だと思います。私自身も仏検1級対策として勉強している間に多くの語彙を獲得しました。語彙が増えることで、友人と話すのも楽になりました。勉強に行き詰まったら、語彙獲得に焦点を当てて勉強してみるといいかもしれません。

一年間のフランス留学は日本を離れて様々なことを考え直すいい機会になりました。特に、周りのフランス人の友人との会話の中でハッとさせられることが何度もありました。あるとき、友人と地震についての話をしていたのですが、私が「近い未来に首都直下型地震や南海トラフ地震が起きることがかなりの高確率で予想されている」ということを伝えると、「なぜ命の危険があることがわかっていながら日本人はそこでくらしつづけるのか」ということを質問されました。私はすぐにその質問にすぐには答えることができませんでした。結局「地震が来ることを知識としては知っているが、実感の伴ったものではないからだ。」と答えました。フランスで育った友人には私の答えはとても納得できるものではなく、「答え」は出ずに終わりました。今でも、日本人がなぜ逃げないのかと聞かれると納得のできる答えを出すのは難しいと考えていますが、日本人が命の危険を知りながらも変わらない生活をしていること、外国人にはその日本人の様子がとても理解できないものであることに気づくことができました。そのほかにも様々な時事問題や政治問題について、フランス人の意見を聞くことができとても興味深い経験になったと感じています。